

加古川市立八幡小学校 令和6年度 第3回 学校運営協議会 議事録

日時 令和7年2月27日（木）9時40分～11時30分

場所 八幡小学校 校長室

参加者 委員：地域コーディネーター、主任民生児童委員、学校ボランティア代表、

PTA 会長

学校：校長、教頭

議事 ①授業参観

②開会あいさつ（校長）

1年間の取組についての報告と学校評価についての検討

③授業参観の感想、および、意見交流

【感想・ご意見】

- ・みんな楽しそうに、うなずきながら学習しているのはすごくよいことだと思う。作品のクオリティが高くて、正直びっくりした。先生の話をしっかり聞いている姿もよかった。落ち着いて授業も受けている様子がうかがえた。
- ・音楽の授業でパソコンを使っているのにびっくりした。そこから想像して何かに発展させる力をつけるというのが、私たちの時代とは違う教育の仕方なのだとすごく関心をもった。
- ・みんななどの教室を見ても、きちんと先生の方を向いているというところがこの学校の素晴らしいところだと思う。聞く姿勢ができてるのは、学級経営がきちんとできているからだと感じた。
- ・学年ごとにそれぞれのレベルが違い、例えば、2年生は毎年同じレベルでない。だから、それを見極めながら上手にやられているし、今後も継続してほしいと思う。

④学校評価の報告

学校教育目標に照らし合わせた学校評価を行った。特に今年度の3つの重点目

標について振り返るとともに、来年度に向けての改善点について意見を交流した。

【「互いに認め合い、個性や特性を受け入れる心を育てる人権教育の推進」について】

（地域支援コーディネーター）

- ・縦割り班とか、上手に子どもたちを動かすなど感じている。なのはなとかひまわりの子どもたちに対し、一緒に連れて授業にいくなど、子ども同士のつながりが強いと感じる。

（主任児童委員）

- ・縦割り班で、違う学年でもお互いのことをよく把握し合っており、大きい子が小さい子のお世話をする姿から、しっかりと連携が取れていると思う。

（PTA会長）

- ・人の個性に対して、あの違うことはおかしいというのではなく、その違いを、当たり前として理解をして、その人を認めることが重要だと思う。

（地域ボランティア代表）

- ・縦割り班で、少子化で兄弟姉妹のように違う学年の子に触れあえるのはすごくよいことだと思う。今後も継続してほしい。

【「自ら学ぼうとする意欲を育てる学習指導の充実」について】

（学校支援コーディネーター）

- ・協同的探究学習で、地域の学習を深めたり、職業人と語ろうでは、子どもの意欲を大切にした取組が素晴らしく、今後の取組が楽しみである。

（主任児童委員）

- ・先生が子どもたちの興味をもたせる取組が素晴らしい。学習指導においてもさまざまな情報をうまく取り入れて取り組まれていることがよく感じられる

（PTA会長）

- ・パソコンの授業でも、1人で取り組むだけでなく、となりの子と教え合いながら学習している様子がうかがえた。パソコンをつかっていても、人と関わるのが楽しいと感じる我が子に安心感を覚えた。

（学校ボランティア代表）

- ・八幡小学校は、小規模校で子どもの数も少ないので、電車を利用するなど本物の経験を味わえる機会を大切にしてほしい。

【「自らの目標に向かう、年間を通した体力づくりの推進」について】

（学校支援コーディネーター）

- ・昔に比べて、今の子は体力が落ちてると感じる。

（主任児童委員）

- ・八幡小の校区は町の方に比べて本当に広く、登下校だけで結構な体力を身に付けられると思う。夏の暑い日、冬の寒い日に歩いて登校している姿を見ると、子どもたちは強いなと思う。

（PTA会長）

- ・学校長の「やはたっ子ぶろぐ」を見ると、学校で子どもたちが元気に遊ぶ様子が紹介されている（雪の時に遊んでる姿、一輪車で元気に走り回っている姿、など）。

（学校ボランティア代表）

- ・我が子が八幡小学校に在籍時、冬場はマラソン大会があり、業間には運動場を何周も走って体力の増進を図っていた。今は、いろいろな制約で当時と同じようにいかないと思うが、その中で工夫しながら体力の増進を図る取組をお願いしたい。

5. まとめ

校長は今後の課題として、教職員の業務負担軽減や、地域との連携を強化する必要性を強調した。会議は参加者の意見を受けて、学校の教育活動をより良くするための協力を呼びかける形で締めくくられた。

この学校運営協議会は、教育の質向上に向けた意見交換の場であり、参加者が学校の現状を理解し、今後の改善点を共有する重要な機会となった。